



起きなさ〜い、朝ご飯 ですよ〜！

April 2, 2013



2〜3週間前のことです。あるブラックホールが何十年にもわたる眠りから目を覚まし、心のこもった朝食をもりもり食べ始めたので、天文学者たちはびっくりしました。クロワッサンやシリアルのことではありません。スーパー木星をです！ スーパー木星は木星（太陽系で最も大きい）よりはるかに大きい天体ですが、恒星になるほどには十分に大きくはないものです。今回の場合、大きさはおよそ木星の30倍。分かりやすく言うと、木星は、内部に地球が1300個以上！入ってしまうほどの大きさ（体積）です。

写真の説明:

欧州宇宙機関の天文学者グループがその夜の観測についたところ、突然、謎の明るいX線の輝きがスクリーンに現れました。どこからこの謎の光がやってきたのか、興味津々（きょうみしんしん）で光の元をつきとめました。それはNGC 4845と呼ばれ、すでに知られている銀河の中心から来ていました。この銀河は今まで何度も観察されていましたが、この夜、それは普段より1000倍以上！も輝いていたのです。

この光は、NGC4845銀河の中心にあるブラックホールの周りの、加熱されたところから来ていました。ブラックホールが周りの不運な物質を引きさき、餌食（えじき）にしていたからです。このブラックホールは、私たちの太陽のおよそ30万倍の質量（重さ）を持っていると考えられています。そして食べ物で遊ぶのが好きなんです： ムシャムシャと食べきってしまう前に、2～3ヶ月以上も、周りの食べ物の中の十分の一ほどをもて遊ぶのです。

このようすは、コンピューターシミュレーションで見ることができます。

COOL FACT

ブラックホールの周りには、事象の地平線と呼ばれる特殊な境界線があります。ここを境にして全てのものが、光でさえもブラックホールに吸いこまれていきます。もしも事象の地平線を横ぎったら、もうあなたに逃げ場はありません！

This Space Scoop is based on a Press Release from [ESA](#).

[ESA](#)



SPACE
awareness



LC
Las Cumbres
Observatory

国立天文台
NAOJ
National Astronomical
Observatory of Japan



This website was produced by funding from the European Community's Horizon 2020 Programme under grant agreement n° 638653